

Title	慈恵医大附属青戸病院泌尿器科における1969年臨床統計
Author(s)	増田, 富士男; 佐藤, 勝; 菅谷, 公平; 上田, 正山
Citation	泌尿器科紀要 (1970), 16(8): 401-407
Issue Date	1970-08
URL	http://hdl.handle.net/2433/121149
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

慈恵医大附属青戸病院泌尿器科における1969年臨床統計

東京慈恵会医科大学附属病院青戸分院泌尿器科（医長：増田富士男講師）

増 田 富 士 男
佐 藤 勝
菅 谷 公 平
上 田 正 山CLINICAL STATISTICS ON PATIENTS, OPERATIONS AND
MAIN UROLOGICAL EXAMINATIONS IN THE DEPARTMENT
OF UROLOGY, AOTO BRANCH HOSPITAL, THE JIKEI
UNIVERSITY SCHOOL OF MEDICINE, IN 1969Fujio MASUDA, Masaru SATŌ, Kōhei SUGAYA
and Masataka UEDA*From the Department of Urology, Aoto Branch Hospital,
The Jikei University School of Medicine*

The following tables show statistics on the patients, diseases, operations and main urological examinations in our department during the period of January to December, 1969.

緒 言

青戸病院は東京慈恵会医科大学附属病院の分院で、東京都葛飾区青戸にあり、ベット数は266床である。同病院泌尿器科における、1969年の外来患者および入院患者の疾患、手術術式、検査などについて臨床統計を行なった。

なお泌尿器科ベットの定床数は12床で、勤務医師は2人または3人である。

外 来 患 者

外来患者総数は1754名で、そのうち男子は1026名、女子は728名、男女比は1.4:1である。年令別分布では30~39才に山がある (Table 1)。

これら外来患者の総疾患数は1819例で、疾患別では炎症性疾患が45%強と最も多く、ついで結石、腫瘍の順である (Table 2)。

以下疾患別に概観する。

1. 奇形および發育異常

検査の結果、男子不妊症と診断したものが48例で最も多く、ついで停留睪丸の31例であった。また下大静脈後尿管、尿管瘤、両側精管欠損症が各1例みられた

(Table 3)。

2. 外傷性疾患

外傷性疾患は少なく、19例であった。このうち8例は手術に起因するものである (Table 4)。

3. 炎症性疾患

Table 5 のごとく、最も多いのが急性膀胱炎で、832例中494例、59%である。このうち女子は403例であり、これは女子外来患者総疾患数743例の54%と、

Table 1 外来患者年令別分布

年 令	男	女	計
0~9	174	45	219
10~19	53	40	93
20~29	210	164	374
30~39	224	172	396
40~49	109	124	233
50~59	81	89	170
60~69	86	62	148
70~79	72	28	100
80~	17	4	21
計	1,026	728	1,754

Table 2 外来患者主要疾患

疾患名	男	女	計	%
奇形および発育異常	148	28	176	9.7
外傷性疾患	13	6	19	1.0
炎症性疾患	353	479	832	45.7
尿路性器結核	36	20	56	3.1
腫瘍	162	32	194	10.7
結石症	146	70	216	11.9
その他の症患	218	108	326	17.9
計	1,076	743	1,819	100.0

Table 3 奇形および発育異常

疾患名	男	女	計
遊走腎	5	20	25
多発性嚢胞腎	1	3	4
重複腎盂尿管	3	4	7
下大静脈後尿管	1		1
尿管瘤		1	1
膀胱憩室	2		2
尿道下裂	6		6
停留睪丸	11		11
右	12		12
左	8		8
両側	1		1
精管欠損症	8		8
精系静脈瘤	30		30
包茎	6		6
嵌頓包茎	3		3
陰茎捻転	2		2
埋没陰茎	1		1
性器発育不全	48		48
男子不妊症			
計	148	28	176

Table 4 外傷性疾患

疾患名	男	女	計
腎外傷	2		2
尿管外傷	2		2
膀胱外傷	1		1
尿道外傷	4		4
睪丸外傷	1		1
茎陰折症	1		1
尿管皮膚瘻	2		2
尿管腔瘻		4	4
膀胱腔瘻		2	2
計	13	6	19

Table 5 炎症性疾患

疾患名	男	女	計
腎炎	7	2	9
腎盂腎炎	17	42	59
急性膀胱炎	91	403	494
慢性膀胱炎	3	30	33
小児出血性膀胱炎	23	2	25
後部尿道炎	1		1
淋菌性尿道炎	9		9
単純性尿道炎	58		58
前立腺炎	25		25
耳下腺炎性睪丸炎	2		2
副睪丸炎	46		46
精索炎	2		2
亀頭包皮皮炎	66		66
閉塞性乾性亀頭炎	1		1
陰茎潰瘍	1		1
形成性陰茎硬結症	1		1
計	353	479	832

過半数を占めていた。

4. 尿路性器結核

総数56例で、そのうち尿路結核は43例である。男女比は25例：18例で男子のほうに多くみられた。性器結核は9例で、このうち4例は尿路結核を伴っていた。なお尿路結核の疑いとしたのは、臨床的には結核であるが、確定診断のつかないうちに来院を中止した者である (Table 6)。

Table 6 尿路性器結核

疾患名	男	女	計
腎結核	1	2	3
右	3	2	5
腎膀胱結核	7	7	14
左	12	4	16
両側	2	3	5
前立腺結核	2		2
副睪丸結核	3		3
右	3		3
左	1		1
両側	2	2	4
尿路結核の疑い	36	20	56
計			

5. 腫瘍

前立腺肥大症が119例と最も多く、ついで膀胱腫瘍の30例である (Table 7)。腎腫瘍は4例とも腎細胞癌であり、腎盂腫瘍は膀胱腫瘍を併発していた。さら

Table 7 腫瘍

疾患名	男	女	計
後腹膜腫瘍		2	2
腎腫瘍	3	1	4
腎盂腫瘍	1		1
腎嚢胞	2	1	3
尿管腫瘍	1		1
膀胱腫瘍	21	9	30
膀胱憩室腫瘍	1		1
尿道腫瘍		1	1
尿道カルシクラ		18	18
前立腺癌	6		6
前立腺肥大症	119		119
睪丸腫瘍	6		6
陰茎癌	1		1
尖圭コンジローム	1		1
計	162	32	194

に比較的可な疾患として、乳児後腹膜奇形腫1例、膀胱憩室腫瘍1例がみられており、睪丸腫瘍は6例で、そのうちの1例は類表皮嚢腫であった。

6. 結石症

Table 8 に示すごとく、総数216例で、その大多数は上部尿路結石である。腎結石、尿管結石ともに1.9 : 1と男子に多くみられた。また下部尿路結石7例はすべて男性である。患側は右側に多く、左右比は腎結石で2.4 : 1、尿管結石では1.9 : 1であった。

Table 8 結石症

疾患名	男	女	計
腎結石 右	17	8	25
腎結石 左	9	3	12
腎結石 両側	4	5	9
尿管結石 右	37	23	60
尿管結石 左	38	17	55
尿管結石 両側	2		2
膀胱結石	6		6
尿道結石	1		1
前立腺結石	6		6
尿路結石の疑い	26	14	40
計	146	70	216

尿路結石の疑いとは、自然排石後とみられる者、結石の症状を有しながらレ線撮影に来院しなかった者などである。

7. その他の疾患

上部尿路疾患63例、下部尿路疾患130例、性器およ

びその他の疾患67例で、その詳細は Table 9, 10, 11のごとくである。

また泌尿器科的に異常を認めなかったものは66例で、このうち他科疾患を有したものは42例であった (Table 12)。

Table 9 その他の疾患 (1)

疾患名	男	女	計
水腎症	5	10	15
腎性高血圧	2		2
腎不全	3	5	8
腎出血	21	13	34
蛋白尿	1	1	2
乳糜尿		1	1
塩類尿	1		1
計	33	30	63

Table 10 その他の疾患 (2)

疾患名	男	女	計
膀胱頸部硬化症	4		4
膀胱脱		2	2
神経因性膀胱	14	9	23
夜尿症	28	13	41
尿失禁	1	15	16
膀胱神経症	10	2	12
尿道異物	1		1
尿道脱		2	2
尿道狭窄	20	5	25
尿道皮膚瘻	3		3
尿道出血	1		1
計	82	48	130

Table 11 その他の疾患 (3)

疾患名	男	女	計
クッシング症候群		1	1
アルドステロン症の疑い		1	1
血精液症	12		12
精液瘤	3		3
陰嚢水腫	18		18
精索水腫	6		6
陰茎異物	1		1
小陰唇融合		1	1
性的神経症 (陰萎をふくむ)	16		16
精管結紮依頼			
計	64	3	67

Table 12 その他の疾患 (4)

疾患名	男	女	計
梅毒	2	3	5
婦人科的疾患		21	21
皮膚科的疾患	7	1	8
外科的疾患	7	1	8
正常	23	1	24
計	39	27	66

入院患者

入院患者総数は244名で、外来患者の約14%が入院したことになる。その治療対象となった総疾患数は253例で、その主要疾患はTable 13のごとくである。

Table 13 入院患者主要疾患

疾患名	例数	%
奇形および発育異常	36	14.2
外傷性疾患	9	3.6
炎症性疾患	26	10.3
尿路性器結核	17	6.7
腫瘍	91	36.0
結石症	40	15.8
その他の疾患	34	13.4
計	253	100.0

1. 奇形および発育異常

Table 14のごとく36例であったが、停留睪丸が16例と最も多く、入院患者中第4位を占めた。

Table 14 奇形および発育異常

疾患名	例数
遊走腎	3
多発性嚢胞腎	2
下大静脈後尿管	1
尿管瘤	1
膀胱憩室	1
尿道下裂	4
停留睪丸	16
精管欠損症	1
精系静脈瘤	2
包茎	3
男子不妊症	2
計	36

2. 外傷性疾患

総数9例と少なく、そのうち4例は婦人科手術後の尿瘻である (Table 15)。

Table 15 外傷性疾患

疾患名	例数
腎外傷	2
尿道外傷	2
陰茎折症	1
尿管腔瘻	2
膀胱腔瘻	2
計	9

3. 炎症性疾患

Table 16のごとく、腎盂腎炎が最も多く、26例中10例、38%であった。

Table 16 炎症性疾患

疾患名	例数
腎炎	4
腎盂腎炎	10
急性膀胱炎	5
前立腺炎	1
副睪丸炎	5
亀頭包皮灸	1
計	26

4. 尿路性器結核

17例中14例が尿路結核で、性器結核3例はすべて副睪丸結核であった (Table 17)。

Table 17 尿路性器結核

疾患名	例数
腎結核	2
腎膀胱結核	12
副睪丸結核	3
計	17

5. 腫瘍

尿路性器の腫瘍は91例で、入院患者の36%を占めている。

このうち前立腺肥大症が44例と入院患者中最も多く、ついで膀胱腫瘍の24例であった (Table 18)。

6. 結石症

尿管結石が最も多く、40例中24例、60%を占めている (Table 19)。

Table 18 腫瘍

疾患名	例数
後腹膜腫瘍	1
腎腫瘍	4
腎盂腫瘍	1
腎嚢胞	2
尿管腫瘍	2
膀胱腫瘍	24
膀胱憩室腫瘍	1
尿道腫瘍	1
尿道カルンクラ	1
前立腺癌	4
前立腺肥大症	44
睪丸腫瘍	5
陰茎癌	1
計	91

Table 19 結石症

疾患名	例数
腎結石	10
尿管結石	24
膀胱結石	5
尿道結石	1
計	40

7. その他の疾患

その他の疾患としては、腎出血 8 例、腎不全 5 例など合計 34 例を数えた (Table 20).

Table 20 その他の疾患

疾患名	例数
水腎症	3
腎不全	5
腎出血	8
乳糜尿	1
膀胱頸部硬化症	1
膀胱脱	1
神経因性膀胱	4
尿道脱	1
尿道狭窄	4
尿道皮膚瘻	2
クッシング症候群	2
陰嚢水腫	2
計	34

手術

手術総数は 229 例であった。このうち 182 例は入院患者であり、47 例は外来患者に対する小手術である。

1. 上部尿路手術

上部尿路に対する手術では、腎摘除術（腎尿管全摘除術を含む）が最も多く 17 例、ついで尿管切石術 13 例、腎部分切除術および尿管膀胱再移植術各 4 例の順になっている (Table 21).

Table 21 上部尿路手術

手術術式	例数
腎摘除術	16
腎尿管全摘除術	1
腎部分切除術	4
腎盂切石術	3
腎固定術	1
腎嚢胞切除術	1
腎瘻術	1
腎生検	3
尿管切石術	13
尿管形成術	1
尿管皮膚瘻術	2
尿管膀胱再移植術	4
尿管 S 状腸吻合術	1
計	51

また腎摘除術 2 例、腎固定術 1 例、腎生検 3 例および尿管切石術 6 例の合計 12 例は、南の側方垂直切開²⁾で行なった。

2. 下部尿路手術

Table 22 に示したごとくで、膀胱の手術では部分切除術（憩室摘除術を含む）が 7 例、全摘除術が 3 例である。

Table 22 下部尿路手術

手術術式	例数
膀胱全摘除術	3
膀胱部分切除術	5
膀胱憩室摘除術	2
膀胱腫瘍摘除術	4
膀胱切石術	4
膀胱瘻術	2
膀胱腔瘻閉鎖術	1
尿道形成術	4
尿道下裂形成術	2
尿道カルンクラ切除術	13
尿道脱切除術	1
計	41

3. 性器手術

前立腺摘除術が25例に行なわれたが、すべて恥骨後前立腺摘除術⁴⁾である。

また睾丸固定術を16例施行したが、このうち7例はmidline approach⁵⁾で行なった。除睾術を行なった4例はすべて腫瘍であり、睾丸部分切除術は睾丸類表皮嚢腫に対して施行したものである (Table 23)。

Table 23 性器手術

手術術式	例数
前立腺摘除術	25
前立腺生検	5
除睾術	4
睾丸部分切除術	1
睾丸固定術	16
睾丸生検	7
副睾丸摘除術	2
陰嚢水腫根治術	2
精系静脈瘤根治術	3
精管切除術	10
陰茎根治的切断術	1
陰茎形成術	1
陰茎生検	1
外陰部形成術	1
包茎環状切除術	8
包茎背面切開術	7
計	94

4. 経尿道的手術

経尿道的手術数ははだいに増加し、本年度は30例であった。膀胱腫瘍に対するTUR-Btが16例と最も多く、経尿道的前立腺切除術は11例である (Table 24)。

Table 24 経尿道的手術

手術術式	例数
TUR-P	11
TUR-Bt	16
TUR-Bn	2
碎右術	1
計	30

5. その他の手術

腎不全に対する治療として、腹膜灌流を6例に行なった。また人工腎の適応症例は本院に転送し、施行した。

その他乳児の後腹膜奇形腫に対する摘除術などを行なった (Table 25)。

Table 25 その他の手術

手術術式	例数
後腹膜腫瘍摘除術	1
腸間膜リンパ腺摘除術	1
手術創再縫合術	5
腹膜灌流	6
計	13

検 査

おもな泌尿器科的検査法とその施行回数は Table 26 に示したごとくである。

Table 26 検 査

検査法	例数
膀胱鏡検査	433
尿道鏡検査	11
排泄性腎盂撮影	649
点滴静注腎盂撮影	57
逆行性腎盂撮影	26
膀胱撮影	96
尿道撮影	109
精嚢腺撮影	5
陰茎海绵体造影	1
後腹膜気体撮影	6
腎動脈撮影	21
下大静脈撮影	1
計	1,415

内視鏡検査としては、膀胱鏡検査が433回、尿道鏡検査が11回である。

またレ線検査法としては、ふつうの排泄性腎盂撮影が最も多く、649回施行し、点滴静注腎盂撮影の57例を加えると706回になる。一方、点滴静注腎盂撮影をはじめとする排泄性腎盂撮影法の改善進歩により、逆行性腎盂撮影回数は減少し、本年は26例に行なったのみである。

腎動脈撮影は21回施行したが、カテーテル挿入の不可能であった1例を除きすべて選択的腎動脈撮影である。

そのほか表に示さなかったが、腎膀胱部単純撮影は、尿路レ線撮影時にはかならず行なうとともに、それ単独でも多数に施行した。

結 語

1969年の東京慈恵会医科大学附属病院青戸分院泌尿

器科における外来患者，入院患者について，患者数，疾患，手術術式および検査の各項目にわたり統計的観察を行なった。

(ご指導，ご校閲いただいた南武教授に感謝いたします。)

文 献

- 1) Jacobson Jr., C. E.: J. Urol., 95: 74, 1966.
- 2) 南武：日泌尿会誌，55：1071，1964.
- 3) 南武：手術，18：904，1964.
- 4) 南武：臨泌，24：25，1970.

(1970年6月1日受付)